## 学校・団体協力賞

秋田県／由利本荘市立西目小学校
山形県／東根市立大森小学校
茨城県／常総市立玉小学校
群馬県／高崎市立倉渕小学校
　　館林市立第六小学校
埼玉県／行田市立南河原小学校
　　熊谷市立熊谷西小学校
　　さいたま市立栄和小学校
千葉県／一宮町立一宮小学校
東京都／青山学院初等部
　　国立学園小学校
神奈川県／三浦市立初声小学校
福井県／越前市立吉野小学校
山梨県／富士河口湖町立船津小学校
長野県／松本市立梓川小学校
静岡県／湖西市立新居小学校
　　湖西市立東小学校
愛知県／豊川市立小坂井東小学校
　　扶桑町立扶桑東小学校
京都府／木津川市立木津川台小学校
大阪府／大阪市立鶴洲小学校
　　大阪市立諏訪小学校
　　大阪市立塚本小学校
　　大阪市立堀江小学校
　　貝塚市立東小学校
　　河内長野市立美加の台小学校
　　堺市立福泉東小学校
　　堺市立南八下小学校
　　八尾市立大正小学校
奈良県／奈良学園小学校
和歌山県／御坊市立湯川小学校
岡山県／岡山市立福浜小学校
広島県／呉市立横路小学校
　　東広島市立西条小学校
　　広島市立伴南小学校
　　広島大学附属東雲小学校
　　福山市立手城小学校
　　福山市立東小学校
　　福山市立引野小学校
　　福山市立深津小学校
徳島県／藍住町立藍住南小学校
　　美波町立日和佐小学校
高知県／土佐市立宇佐小学校
長崎県／雲仙市立千々石第一小学校
　　五島市立福江小学校
宮崎県／延岡市立伊形小学校
鹿児島県／屋久島町立安房小学校
日本国外／深セン日本人学校
　　ブラッセル日本人学校
　　香港日本人学校香港校小学部

## 【応募作品の特徴】

昨年に引き続き、研究・創作の対象の多様化（タコではヒョウモンダゴ・エビではセミエビなど）が進んでおり、様々な生物に興味を持って取り組んでいる様子がうかがえました。

その中で昨年より更に増えたのが環境問題に関する作品で、研究はもとより絵画・作文などほとんどの部門で多く見られました。

## 【各部門の特徴】

**研究部門**

《観察図》
- アカエイ・フサギンポ・フトユビシャコなど観察対象のバラエティには富んでいましたが、観察図としての形式が成されていなかったり、独自の視点を持って取り組んだものは少なかったり、あと一歩足りない作品が多く残念でした。
- 低学年の自由研究の中で観察図のような作品もいくつか見かけたので、低学年が研究に挑戦していることの表れのようにも思えます。
- 身近なカニやヤドカリなどを題材にした作品も多く、子どもたちが様々な海の生物に触れることができていると感じられました。

《自由研究》
- マイクロプラスチックに関する作品が急増し、学校やメディアからの影響力が大きいと感じられます。ただ、取り上げ方や切り口が似ているものが多いようにも思えました。
- ホタテでチョークを作ったり、ウチワエビの甲羅でアジやイカをさばいたりと、オリジナリティのある研究が印象に残りました。環境エンリッチメントを実践しようとするなど、今までより一歩進んだ視点から取り組まれたものもありました。
- 実際に自分で体験・実験したことに加え資料・データの量が多くなり、パソコンでまとめている作品もいくつかありました。

**創作部門**

《作文》
- 話題性のあるマイクロプラスチックなどを始め、環境問題をテーマにした作品が非常に多くありました。ただし、現状の説明のみにとどまり、自分なりの見解やエピソードが薄いものが目ほどにされた。
- 実体験に基づく作品は、子どもならではの視点や感情がいきいきと表現されています。
- 創作文では、残念ながら独創性に富んだ作品は見られませんでした。

《工作》
- モーターで動く作品や遊べるもの・光るものなど工夫をした作品も一定数ありますが、「動く・遊べる」だけで終わってしまい、完成度という点で適道におよばないものが大多数でした。
- 毎年、箱の中に海の風景を表現したものは多く送られてきますが、紙粘土ではなく本物のカニの殻や魚の骨を使い、特徴ある姿の古代魚をモチーフつ古代の海の風景を再現したものなどもあり、着眼点の面白い作品もありました。

《絵画》
- 魚1匹を細部まで観察して描いたものよりも、海の中の風景を描いたものが多いです。身近なイカ・タコ・トビウオが人気ですが、バショウカジキやフウセンウオなど姿形の面白い生物も人気があります。
- 躍像やイメージから描かれたと思われるものと、自分の体験を描き起こしたと思われるものとでは、楽しさや勢いなど雰囲気の差が大きいと感じます。
- 海外からの応募作品のレベルが驚異に上がっており、時間をかけて描かれた絵も以前より多く見受けられました。

《絵本》
- 優秀作品においては、内容としても作り方としても個性のあるものが多くありました。"レジ"という名のレジ袋を悪役よりの主役として取り上げた作品や、コバンザメが銀行をやっている作品などがあり、発想力の豊かなものが増えたように感じます。
- 段ボールで凹凸があるように作られていたり、プラスチックを用いてステンドグラス風に仕上げているものなど表現にも様々なものが見られました。

入賞作品71点、そのうち
**最優秀賞16点**
**海外作品特別賞1点**
**優秀賞54点**
が決定しました。

最終審査会の様子

応募者全員に「海とさかな博士号認定証」と「ニッスイおさかなマクネット」を贈呈！

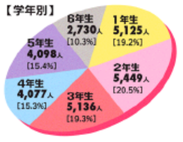
＊「研究部門」「創作部門」最優秀賞入賞者には、賞状・盾、副賞として図書カード（5万円分）を贈呈。
＊「研究部門」「創作部門」最優秀賞入賞者には、表彰式当日と翌日に、海洋テーマパーク（千葉県浦安市）へ、ご家族でご招待いたします。
＊学校団体応募者にて登録いただいた中から、応募作品数、ならびにその学校・団体における取り組みなどを審査し、事務局審査において推薦された50校・団体に、学校・団体協力賞として賞状と図書カード（2万円分）を贈呈いたします。

※海洋にいる生物には絶滅種が設定されている場合があります。採集をするときには必ず管轄の漁業協同組合にたずねましょう。

## 【応募状況（人数）】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 50 | 東京都 | 978 | 滋賀県 | 532 | 香川県 | 25 |
| 青森県 | 58 | 神奈川県 | 1,543 | 京都府 | 305 | 愛媛県 | 203 |
| 岩手県 | 26 | 新潟県 | 444 | 大阪府 | 5,463 | 高知県 | 107 |
| 宮城県 | 149 | 富山県 | 15 | 兵庫県 | 468 | 福岡県 | 764 |
| 秋田県 | 199 | 石川県 | 77 | 奈良県 | 281 | 佐賀県 | 165 |
| 山形県 | 334 | 福井県 | 194 | 和歌山県 | 382 | 長崎県 | 966 |
| 福島県 | 264 | 山梨県 | 236 | 鳥取県 | 16 | 熊本県 | 192 |
| 茨城県 | 577 | 長野県 | 275 | 島根県 | 88 | 大分県 | 38 |
| 栃木県 | 219 | 岐阜県 | 197 | 岡山県 | 903 | 宮崎県 | 332 |
| 群馬県 | 187 | 静岡県 | 552 | 広島県 | 3,072 | 鹿児島県 | 554 |
| 埼玉県 | 1,550 | 愛知県 | 1,153 | 山口県 | 5 | 沖縄県 | 35 |
| 千葉県 | 565 | 三重県 | 62 | 徳島県 | 867 | 日本国外 | 948 |
| | | | | | | 合計 | 26,615人 |

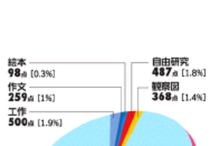
【学年別】




作品数合計 **26,608 点**

応募作品数は26,608点と、昨年を2,564点下回りました。「研究部門」の「自由研究」は応募減になりましたが、「観察図」は増えました。「創作部門」は応募数が減るなかで、全体的に子どもらしい良い作品が集まりました。

【分類別】




創作部門　海外作品特別賞

作文
## 海とさかな
イタリア トリノ補習授業校 2年
小林 千真

僕がはじめて魚釣りをしたのは、六才のときです。おばあちゃん家の近くにある釣りぼりで、金魚釣りをしたことがきっかけで釣りが大好きになりました。なかなか釣れないと「あー、もうなんで釣れないのかなあ」とイライラする時ほど、魚が針にかかると竿が強いう力で引っ張られて、ドキドキしながら僕も負けるかといっしょうけんめい竿を持ち上げて魚がとれた時のうれしさがたまらないです。今年の夏休みは、家族でイタリアシチリア島の南にある小さな共和国に行きました。マルタ島の海は、青くすき通っていてとてもきれいで、魚がたくさん泳いでいるのが目で見えるから思わず手でつかまえたくなります。

その日の夕方、釣り具屋さんに買ってもらった釣り道具とエサを持って、お父さんと一緒に船着き場で釣りをしました。僕の近くでいっぱい魚を釣っていたイイルランドから来たおじいちゃんがいたから、どうやったら釣れるか僕は聞いてみました。

〔…以下略〕

**事務局から**
マルタ島の海で魚釣りをした経験から、「何で海の水の高さが変わるのか」「何で魚にはウロコがあるのだろう」など、海や魚の不思議を素直に感じている姿がとても印象的でした。

## 最終審査会の先生方より

**坂本 和弘**（葛西臨海水族園 副園長兼飼育展示課長）
21回目から参加しています。今年は研究部門で自発的な学習をしている素晴らしい作品が多くみられました。大人から考えても難しい「海」や「生き物」の問題を正面から向き合っている作品にとても感心しました。


**高瀬 美和子**（農林水産省 水産庁増殖推進部 研究指導課長）
初めて審査に参加しましたが、自由研究の着想が子どもらしく、かつ自分で解決をしようという姿勢が作品から伝わり素晴らしいと思いました。まるで将来のノーベル賞候補者を見ているようでした。

**有本 淳**（文部科学省 国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官）
作品を審査するのが毎年本当に楽しみです。マイクロプラスチックなど今問題となっているテーマが作品の中に反映されていると感じました。本作品を通して海の問題をより多くの子どもたちに知ってほしいと感じました。

**佐藤 孝子**（国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球情報基盤センター技術副主幹）
25回から審査に参加しています。大きにはない、とっぱな発想があふれていて毎年楽しく審査をしています。傾向として「クスっと笑える作品」よりも、時事問題などをあつかった「真面目な作品」が多いと感じました。

**神山 孝史**（国立研究開発法人水産研究・教育機構 研究推進部長）
今年初めて審査に参加しました。小学生の作品とは思えないレベルの高いコンクールだと思います。特に創作部門の絵画は細かいタッチの作品が多く、時間をかけて根気よく描いていることが伝わってきました。

**神保 充**（日本水産学会・北里大学 海洋生命科学部 准教授）
今年は創作部門のクオリティが高いと感じましたが、中でも絵本のバラエティーが非常に豊かで楽しみながら審査しました。その一方で研究部門がインターネットの調べ学習で終わっている作品が多いのが残念でした。

**飛田 浩昭**（西武学園文理小学校 校長）
今年も大人には気づかない子どもらしい着眼点に感心しました。研究部門の観察図では「調べてわかったこと」よりも「見て気がついたこと」をしっかりと描けていたのが非常に良かったと思います。

**森田 和良**（前筑波大学附属小学校 副校長）
研究部門の自由研究では、長期間飼育をするなどしっかりと労力をかけて研究をしているのが作品から伝わりました。創作部門の絵画では、海やさかなに対する愛が伝わってくる作品が多かったです。

**森井 茂夫**（日本水産株式会社 CSR部長）
「海とさかな」に対する関心がたくさんの作品から伝わりました。研究部門の自由研究では子どもの発想力に驚かされ、また創作部門の絵本ではストーリー性に優れているものが多いのも本年の特徴だと感じました。

**石田 勲**（朝日新聞社 科学医療部長）
審査に参加するのは昨年に続き2度目になりますが、今年も子どもたちのみずみずしい豊かな感性に驚かされました。創作部門の絵画では色合いがきれいな作品が多く、審査をするのがとても大変でした。

**松本 宏樹**（朝日学生新聞社 取締役管理担当編集部長）
今年で38回目を迎える コンクールですが、全体的にレベルが高く丁寧さを感じました。それだけではなく子どもらしさを感じる「あっと驚く」作品もあり、楽しく審査をさせていただきました。



# 第38回 海とさかな 自由研究・作品コンクール

「海とさかな」自由研究・作品コンクールホームページ
https://www.umitosakana.com/

■主催／朝日新聞社、朝日学生新聞社　■後援／農林水産省、文部科学省、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人水産研究・教育機構、公益財団法人笹川平和財団、公益社団法人日本動物園水族館協会　■協賛／日本水産株式会社

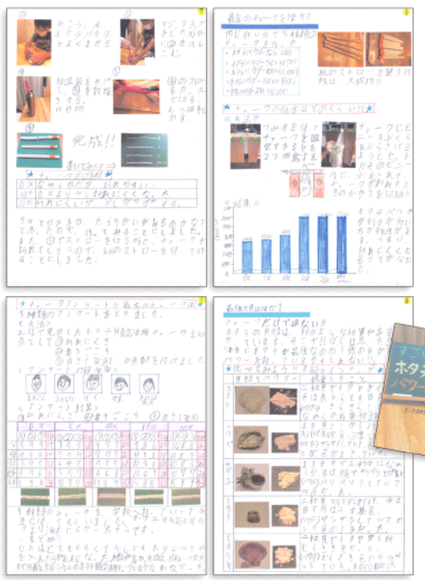
# 入賞発表

「海とさかなとわたしたち」をテーマに、海とさかなにかかわる「なぜ？」から生まれた研究・創作作品を募集した第38回「海とさかな」自由研究・作品コンクール。2万6608点の個性あふれる応募作品から、入賞作品71点が決まりました。その中から、最優秀賞16作品と海外作品特別賞、学校・団体協力賞を紹介します。（くわしい紹介はコンクールホームページに掲載されています）

研究部門　農林水産大臣賞



自由研究
## すごいぞ！ ホタテパワー
埼玉県 さいたま市立浦和別所小学校 4年
中村 勇吾



**事務局から**
学校のチョークがホタテの貝殻から作られていることを知り、「ホタテの殻と産業廃棄物」について学びました。身近な出来事をきっかけに深い研究へつなげている点が高い評価を得ました。

【研究のキッカケ】
夏休みに家族でキャンプに行きました。夕飯にBBQをして、そこでたくさん貝を焼きました。その時、残った貝がらを見て、「もったいないな…」けど捨てるしかないかな、と思いました。
そうしたら、父に「昔、ホタテ貝でチョークを作る番組を見たよ。調べてみたら？」と言われました。
「もしかしたら、僕の通う学校などのチョークもホタテ貝で作られているかも!!」と思い調べてみたら、やはりそうでした。
さあ！ 調べてみよう!! 研究スタート!!
【水産系廃棄物!!［…略］
【ホタテの貝殻を活用する］［…略］
【Let's 貝殻を作ろう］［…略］
【そうだチョークを作ろう］［…略］
【最高のチョークを探せ!!］［…略］
【最強の貝は何だろう］［…略］
【最強の貝 バトルプラン】
【★バトルプラン★】
最強の貝を決めるために、3つのバトルを考えました。［…略］
【バトル1 風呂カビ対決］［…略］
【バトル2 パンカビ対決］［…略］
【バトル3 臭い対決］［…略］
【最強の貝は何だ？ まとめ］［…略］
【結果のまとめ】
・加熱だとホタテは、どのバトルでも、効果が高かった。
・その他の二枚は、ホタテほどではないが、まき貝より効果が高かった。
・まき貝は、全体的に、効果が低かった。
【考察】
商品化しているホタテパウダーは、PHが高く、強アルカリ性のため、様々な効果があります。なので、ぼくは、PHが高ければ、他の貝殻でも同じ効果があるのではないかと考えていました。
［…以下略］
【感想】
今回ホタテ貝殻を使用したチョークが身近な所で使われていることが分かりました。またホタテ貝は様々な効果があることを分かりました。
チョークはたくさん出まわっているけど、防カビや消臭をはじめ、様々な効果があることはあまり知られていないので、もっとホタテパワーが世間に知られるといいと思います。そうすれば、どんんたまっている水産系廃棄物がへると思いました。
［…以下略］
〔参考文献〕［…略］

創作部門　農林水産大臣賞

作文
## 僕の大漁旗
神奈川県 横浜市立日限山小学校 6年
徳安 諒音

小学校生活最後の運動会、僕は六年生のみんなと描いの長半てんを着て、ソーラン節！ を踊った。
長半てんは大漁を祝い関係者に配られ、神社仏閣に奉納する時や、祭宴で着れ親しまれていたが、東北地方では明和五年に配られた事を最近に、その習慣は終ぎた。
僕の長半てんは、ボーカが海の絵が描いてある。本物の長半てんは、しっかりした木綿の布地に、家紋やつるや松が、色あざやかに染めてあり、とても美しかった。
長半てんを調べていくと、よく目にするのが「大漁旗」だった。三重県と違い、赤や黄色や緑の布地で、色どりどりの染具の大きくて字や絵が描いてある。見ているのがとても楽しかった。一体どうやって作っているんだろう、そう思った僕は、大漁旗を作ることにした。
大漁旗は、第二次世界大戦、軍海の際船印として立てられていたのぼりから発祥したとされている。
木綿地にもちろんとぬかの混ぜて作った『もち米のり』で絵を描き、その絵を顔料を混ぜて作った染料で染めていく。（顔料を混ぜるのは色やけを防ぐため。）この時の染色技法は、方眼（長手てん）染めがそのままいかされている。
三崎港のそばに「三富染物店」があり、八三三（大保四）年、江戸時代から続く老舗で、現在七代目、神奈川県で唯一一軒、大漁旗を作っている店である。大漁旗は、かながの名産百選に選ばれている伝統工芸品である。
工房は店の裏手にあった。工房には僕の教授（実際は弟分）ある白い旗が、ロープにかかって広げてあった。色のついた布地に絵を描いていくと思っていたが、僕が画用紙に絵を描くのと同じように描いていた。しかも紙ではなく、ロープで張られた布地に、空中で真剣から染めていくのだ。僕の頭は少し混乱した。旗の絵は、僕が大好きなカジキマグロにした。頭部を見て何だかワクワクしてきた。大きめのはけでバックの中から染めていく。僕が時間をかけて一事に染めていると「一事は大切。けれど手早くだよ。乾いてしまうからね。」〔…以下略〕

**事務局から**
大漁旗に興味を持っただけではなく、実際に自分の手で作り上げる行動力が素晴らしい。文章をまとめる力が非常に優れており、「読ませる作文」だと高評でした。

研究部門　文部科学大臣賞

自由研究
## 環境エンリッチメント ～生き物達に幸せを～
東京都 星美学園小学校 3年
岩下 宗也

【はじめに】
今年2月、ぼくは新聞記事に出会った。それは「環境エンリッチメント」
記事の内ようは、動物園による「ゾウのお幸せを目指す飼育」のしょうかいだった。この記事のおかげでいんしょうすきだったのが、「ゾウのお幸せのしょうかいをしたい」という言葉だ。
ぼくは、小さい時から、生き物をつかまえて飼うことが好きで、今も、荒川でとったハゼや田んぼでとったドジョウ、ザリガニ、カエル、メダカなど10しゅるいくらいの生き物を飼っている。エサをやったり、水をかえたり、大切に世話をしてきたつもりだけれど、生き物がどう思っているかは、ぼくにはしることはできなかった。
そこで、「環境エンリッチメント」について調べ、ぼくが飼育している生き物たちの飼育環境を「ゆたかで、幸せなもの」にかいぜんしていくことにした。
［…以下略］
〔環境エンリッチメントとは…〕
［…以下略］
〔環境エンリッチメントのしかるい〕［…略］
○環境エンリッチメントについてかいつまんでいえば、
①上野動物園［…以下略］
②かいいりんかいいすぐ園［…以下略］
【市民ZOOネットワーク】と【エンリッチメント大賞】［…以下略］
【環境エンリッチメントのじょうが方法】［…以下略］
【家で飼育している生き物たちへの環境エンリッチメント】
［…以下略］
【まとめ・研究を通して考えたこと…】
・「動物の権利」と「動物の福祉」
研究の中で、「動物の権利」（アニマルライツ）という考え方があることを知った。動物には人間からきがいをあたえられたり、ひどいあつかいをうけたりすることなく、それぞれの動物の本性にたがって、生きる権利がある」とする考え方だ。実けんされない権利や何者されなくはドキドとした。
「これをはつくはドキドとした。
［…以下略］

つねかつできたのの、実さいに行って見てみることにした。
①上野動物園
②かいいりんかいいすぐ園
［…以下略］
【市民ZOOネットワーク】と【エンリッチメント大賞】［…以下略］
【環境エンリッチメントのじょうが方法】［…以下略］
【家で飼育している生き物たちへの環境エンリッチメント】
［…以下略］
【まとめ・研究を通して考えたこと…】
・「動物の権利」と「動物の福祉」
研究の中で、「動物の権利」（アニマルライツ）という考え方があることを知った。動物には人間からきがいをあたえられたり、ひどいあつかいをうけたりすることなく、それぞれの動物の本性にたがって、生きる権利がある」とする考え方だ。実けんされない権利や何者されなくはドキドとした。これをはつくはドキドとした。
［…以下略］

**事務局から**
新聞で知った「環境エンリッチメント」（動物の飼育環境を豊かにする試み）について、いろいろな事例を調べるだけではなく、飼っている魚のハゼにも実践するなど、生き物の幸せを真正面から考えました。

創作部門　文部科学大臣賞

作文
## 私のクラムチャウダー
広島県 廿日市市立大野西小学校 5年
泉 希歩



〔お母さん、クラムチャウダー食べたい。のあと手伝うけん、一緒に作ろうぞ〕
スーパーへ行くと、冷とうのシーフードの種類が、たくさんある事におどろきました。お母さんふくろのうらを見て、「冷とうのはさ軽で楽じゃけど、外国産の物が多いけえ、あんまり使いたくないんよね」と、言いました。初めて作ったクラムチャウダーは、塩からく、あまり美味しくありませんでした。私は、どうしてなんだろうと、くやしい気持ちになりました。
それから私の、美味しいクラムチャウダー作りが始まりました。美味しいクラムチャウダーを作るために、自分で色々調べたり、試しました。そうするうちに、冷とうのシーフードはどこで、どうやって、どんな人が取ったり作ったりしているのだろう、他の国にもクラムチャウダーはあるのだろうか、と色々想像するようになりました。世界の海で取れるクラムチャウダーの材料は、日本の海にも世界の海にも、たくさんの宝石がねむっているような、ワクワクした気持ちになりました。
近所の海には、おじいちゃんがあさりの畑を持っています。そのあさり畑は、ひいじいちゃんから、ずっと受けつがれていて、元気で大きなあさりを育てるために、海のそうじをしたり、すなおの上にネットを張ったりをします。学校が休みの日には、家族と一緒にそのお手伝いをして、その後のたべ物や海ぞうを見つけるのが、まるで宝さがしみたいで、ごく楽しいです。あさり畑に行くと、色んな人と仲良くなれるし、大きくなったあさりをみんなでほって、それを食べたり、近所の人にあげたりして、うれしい事がたくさんあります。私はそのあさり畑で育てたあさりで、クラムチャウダーを作ったら、どんなに美味しいだろうと、思いました。
そんなある日、宿題をしていると、電話がかかってきて、お兄ちゃんが骨折したから帰りがおそくなるっていうのを知りました。私はお兄ちゃんの事がすごく心配で、宿題どころではなくなりました。大事な試合のために、毎日がんばっていたお兄ちゃんを知っていたからです。お兄ちゃんのために、何かしてあげたい。何が出来るだろう？と、必死に考えました。よし！クラムチャウダーを作ろう！レシピの本を借りた時、目にはカルシウム等の栄養素がたくさんつっている事を、勉強しました。〔…以下略〕

**事務局から**
骨折したお兄さんのために一生懸命クラムチャウダー作りをしている姿が文章から伝わってきます。「あさりやカキを育てるこの町と海を大切にしていきたい」という優しさを感じる締めくくりも素敵です。

朝日小学生新聞 (第三種郵便物認可)



研究部門 水産研究・教育機構理事長賞

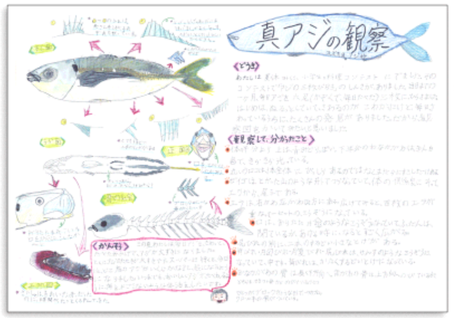
観察図

## 真アジの観察

茨城県 江戸川学園取手小学校 2年
安部 愛禾

〈ようき〉
わたしは夏休みに、小学生の料理コンテストにでました。そのコンテストでアジの三枚びらきのしんさが、ありました。当日までの一ヶ月、毎日アジを六尾(かぞく)で、毎日たべた二枚に、ひらきました。

はじめは、ぬるっとしていて、さわるのがこわかったけど、毎日さわっているうちに、たくさんの発見がありました。だから、観察図をかいてみたい、と思いました。
〔…以下略〕




事務局から
食卓でも身近な魚「アジ」を1か月にわたり細部まで観察しています。
観察図の基本である正面・側面・裏面の三方向からのスケッチも上手に出来ています。

創作部門 海洋研究開発機構理事長賞

絵本

## イワシの大冒険／しんかい6500大探索

大阪府 大阪教育大学附属天王寺小学校 4年
佐々木 琳史

ぼくは、イワシのタッターだよ。
今日はどこに行こうかな。
あれ？　なにかがふってきた。
なんだろう。
うわっ
カッオドリだ～　食べられちゃう～
リュウグウツカイといっしょに逃げよう。
〔…以下略〕

事務局から
切り絵といった特殊な技法で絵を表現したり、絵本の表から は「イワシの大冒険」、裏からは「しんかい6500大探索」という両面から楽めるアイデアがあったり、読む人を楽しませる工夫にあふれた完成度の高い作品です。

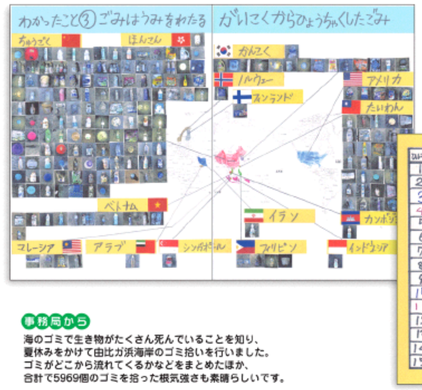
研究部門 海洋研究開発機構理事長賞

自由研究

## うみとごみのけんきゅう

神奈川県 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校 1年
薬谷 佑月

〔きっかけ〕
きょねんゆいがはまかいがんで、シロナガスクジラがしんでいるのをみました。そのクジラのおなかのなかにプラスチックがみつかったことと、さいきんみのごみのせいでたくさんのいきものがしんでいることをうえのはっぷつかんのだいはにゅうるいてんでしった。
〔しらべたいこと〕
●うみはどれだけごみがおおいのか？
●うみにはどんなごみがおおいのか？
●うみのごみはどこからくるのか？
●いきものはなぜごみをたべてしまうのか？
〔ほうほう〕〔もくひょう〕〔けっか〕〔…略〕
〔プロにきく〕〔…略〕
〔わかったこと〕①②③④⑤〔…略〕
〔かんそう〕
〔うみとさかなのためにぼくができること〕
うみとさかなをまもるためには、いちばんおおくてやっかいなプラスチックごみをへらすひつようがある。
〔…以下略〕



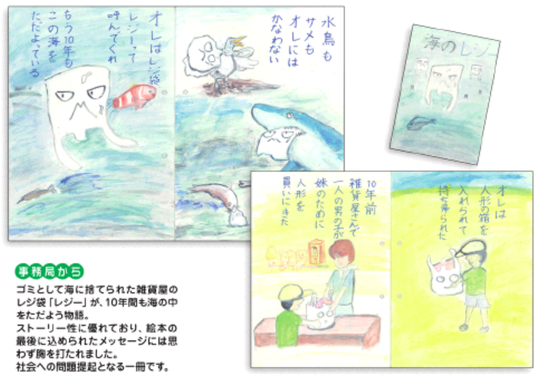
事務局から
海のゴミで生き物がたくさん死んでいることを知り、夏休みをかけて由比ガ浜海岸のゴミ拾いを行いました。ゴミがどこから流れてくるかなどをまとめたほか、合計で5969個のゴミを拾った根気強さも素晴らしいです。

創作部門 日本水産学会会長賞

絵本

## 海のレジー

千葉県 浦安市立北部小学校 6年
徳光 穂香




事務局から
ゴミとして海に捨てられた雑貨屋のレジ袋「レジー」が、10年間も海の中をただよう物語。
ストーリー性に優れており、絵本の最後に込められたメッセージには思わず胸を打たれました。
社会への問題提起となる一冊です。

研究部門 日本水産学会会長賞

自由研究

## ストロンボイドノッチの秘密

鹿児島県 志布志市立春月小学校 5年
二石 寛士

〔目次〕〔…略〕
【1．この研究の動機】
ぼくは、以前奄美大島に住んでいました。今は志布志という港町に住んでいます。ある日、魚屋さんのお刺身コーナーでまぐろうたのは、「マガキガイ」。奄美大島では、「テイラダ」とか「トビンニャ」とよばれていて、人気の食材です。一番でられて八ッタに詰められた「マガキガイ」には、「志布志産」と書いてありました。
ぼくは、「志布志でもとれるんだ！」と、とてもおどろきました。夏休みの研究はこれにしよう」と、この時決めました。
〔…以下【2-12】の実験・観察等略〕
【13．研究のまとめ】
ぼくは、引っ越し先でのくらぜんの出会いから、マガキガイの研究をするようになりました。水そうの中に入れて、観察してみると、本当に色々な発見がありました。
マガキガイ独特の、足を出してから、殻を引っ張る動き方、つめ（ふた）を砂地に刺してジャンプするところ、奇妙な位置についた眼、右眼専用の「ストロンボイドノッチ」など、おもしろい生態が明らかになりました。
しかし、研究を続けるうちに、いくつかの疑問もうまれました。
〔…以下略〕

事務局から
巻頭にある「ストロンボイドノッチ」（殻にある切れ込み）に着目し、その役割について実験や観察をしました。
「右目と左目の視野の違い」や、「より広い視野を得るには」など、意欲的に学ぶ姿が高評でした。

創作部門 水産研究・教育機構理事長賞

絵画

## 母ダコの強さは愛

鹿児島県 鹿児島大学教育学部附属小学校 6年
安藤 静汐

事務局から
タコの子どもを母ダコが守る姿を細やかなタッチで描き、「生き物の強さ」と「愛情」を表現しています。また、色使いがとてもきれいで丁寧に取り組んでいる点も高評でした。

創作部門 日本水産株式会社賞

絵画

## 海とさかな

愛媛県 新居浜市立金子小学校 6年
中田 小晴

事務局から
ウミガメ、ジンベエザメ、クラゲといった海の人気者たちを一つ一つ丁寧に仕上げ、生き生きと泳ぐ姿が伝わってきます。メインのウミガメは甲羅の色使いが非常にきれいです。

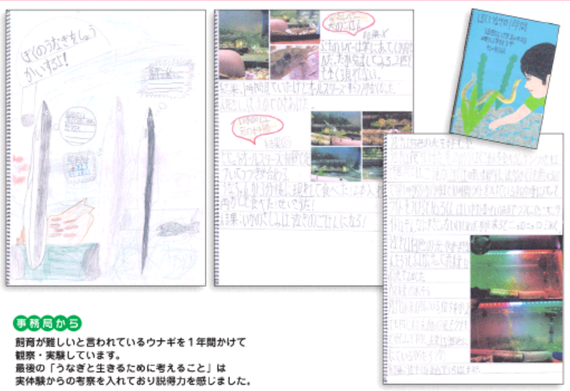
研究部門 朝日学生新聞社賞

自由研究

## ぼくとうなぎの1年間

東京都 文京区立藤川小学校 3年
松崎 日恒

〔目次〕〔…略〕
【はじめに　うなぎとの出会い】
ぼくが、まだ小さかった時、大好物はうな丼だった。うなぎ屋さんでうなぎがかざってあって、それがとてもかわいかったのでつかまえたいと、思って、去年の5月から色々な川や湖でわなをしかけたり、つりをしたりしてがんばった。3か月がしつづけたけど他の魚しかつかまらなくてがんばった時におじいちゃんが三匹とってきてくれた。それからうなぎはぼくの友達になった。もううなぎ丼を食べるなんて考えられない。うなぎを守りたい。うなぎはもしろくてふしぎな魚。これは、ぼくとうなぎの1年間の記ろくだ。
【ぼくのうなぎをしょうかいするよー】
〔…略〕
【うなぎのふしぎを追いかける】
1．うなぎの家
うなぎを1年飼っていて気づいた事は、うなぎは、いつも同じ場所にいる。
〔…以下略〕
2．うなぎはどのくらいいしょくするか？
うなぎがどれくらいご飯を食べるかはきせつによってちがう。冬は、あまり食べない。〔…以下実験・観察等略〕
【うなぎと生きるために考えること】
ぼくは小さいころからうな丼が好きだった。でもうなぎをかってから食べられなくなった。うなぎちとくらしたぼくの1年間。うなぎは毎日おもしろいがたを見せてくれた。
〔…以下略〕




事務局から
観察が難しいと言われているウナギを1年間かけて観察・実験しています。
最後の「うなぎと生きるために考えること」は実体験からの考察を入れており説得力を感じました。

創作部門 朝日新聞社賞

絵画

## 大漁

埼玉県 さいたま市立栄和小学校 3年
武藤 一紗

事務局から
魚の群れをダイナミックに描き、インパクトも抜群です。また、漁を上空から見下ろす構図で、まるで魚が動いているかのような躍動感を表現しています。

研究部門 朝日新聞社賞

観察図

## ナマズのお食事

京都府 京都市立京羽小学校 2年
稲波 紘太

事務局から
ナマズのエサであるカワヨシノボリを丁寧に観察しています。
ウロコが反射してキラキラ光る姿をカラフルに表現しているのが印象的です。また、おなかの観察図をダイナミックに描く構図も高評でした。

研究部門 日本水産株式会社賞

自由研究

## メダカのふしぎ?!みーつけた

東京都 国分寺市立第九小学校 3年
髙野 愛莉

〔目次〕〔…略〕
【メダカのかんさつをはじめた理由】
きょ年たまごからそだてていたメダカが、せい長し、今年4月になかにたまごをつけていました。2～3びきのメダカがほとんど毎日たまごをうんでいてかんさつするのが楽しくなってきました。毎日かんさつしているときんに思うことや気がついたことがありました。まだまだわからないことや知りたいことがあるので、よりくわしくかんさつしてみようと思い、自由研究のテーマとしてえらびました。
〔…以下略〕
【なぜメダカはへってしまったの？】
日本のメダカは、1999年にぜつめつしてしまうおそれのある野生生物にしていされてしまいました。
〔…以下実験・観察・記録等略〕
【感想】
きょ年わたしの家でたまごからそだていたメダカが今年親になりたまごを生みました。そして数えきれないくらいのメダカが生まれました。本にはぜつめつきくりゅうになってしまったと書かれてあったけれど、メダカにとってよいかんきょうが整えば田んぼや小川、池などでもそだつことができてぜつめつしないのではないかと思いました。
〔…以下略〕

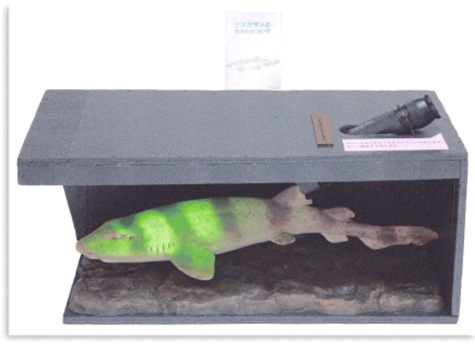
事務局から
「水温の違いは卵の孵化に影響を与えるか」という大人でも想像がつかない実験のテーマが素晴らしいです。
1か月間イキイキと楽しく観察をしている様子が作品から伝わってきました。

創作部門 朝日学生新聞社賞

工作

## 深海で緑色にかがやくナヌカザメ

東京都 国分寺市立第九小学校 4年
（ヒコロアート教育 絵画教室）
横山 雄太



事務局から
作品の作りがとてもリアルで、目の前に本物のナヌカザメがいるような仕上がりでした。
また、石斜め上からライトの光をあてることにより、立体感と臨場感を巧みに表現しています。

〔だうき〕
ぼくのいえには、ぼくが生まれた時からおじいちゃんがそだてていたなまずがいます。
お兄ちゃんが高こうのりょうにんったので、今はぼくがお父さんとなまずのエサをとりに行っています。
そのエサの中におもしろい魚がいたのでかんさつしてみました。
〔かんさつした日〕
7月28日（日）いえの近くの山しな川
〔つかまえたほうほう〕
あみでガサガサする。ながれが少ないところ。
〔…以下略〕